

本日の目的

- ①中小M&Aの意義、②中小M&Aの取組状況、③中小M&Aを推進するための課題について、共通理解を得て、**本研究会で検討する論点を確定すること。**

【論点案①】中小企業におけるM&Aの意義について

- 「経営者の高齢化への対応」だけでなく、今後は、「生産性向上」や「創業促進」の観点からもM&Aを推進することで、構造的な目詰まりや、新型コロナウイルス感染症の影響の克服に貢献できるのではない。

【論点案②】中小企業におけるM&Aの実施状況について

※地域／企業規模／支援機関毎に

＜民間支援機関による取組＞

- M&A準備段階における売り手側企業への相談対応や働きかけは十分か。また、相談等の後に必要な支援機関につなげているのか。経営者の側にも問題はないか。更にどのような取組を行うべきか。
- M&A実施段階における売り手側企業への支援は十分か。特に地域の小規模案件への支援が不足していると考えられるが、なぜ不足しているのか（経済合理性欠如、体制・ノウハウ不足等）。
- 相対でのM&Aも少なくないところ、経営者が直接コミュニケーションできるような場の提供や、地域で特に重要な中小企業〔事業〕への戦略的なアプローチも重要ではないか。また、感染症の影響が広がる中においては、点での支援だけでなく、面（地域、業種等）での支援も必要ではないか。

＜事業引継ぎ支援センターによる取組＞

- 事業引継ぎ支援センターの取組内容について、何らかの改善点はないか（役割明確化、民業補完性、全国均一サービス等）。感染症の影響を受けて、センターへの期待に変化はあるか。

【論点案③】中小M&Aの円滑な実施に向けた環境整備について

＜イメージ向上の取組＞

- 中小企業におけるM&Aの正しい理解を広げるため、官民によるどのような取組が必要か。その取組の一つとして、事業承継診断の取組を改善・発展させることも有効なのではないか。

＜適正な取組の推進＞

- 中小M&Aガイドラインを徹底させることが必要であり、その徹底のために何らかの仕組みを構築することが必要ではないか。

＜制度的な課題と対応状況＞

- 経営者保証問題の解決に向けた取組は適切に進められているか。何らかの改善点はないか。
- 中小M&Aを巡るその他の制度的な課題には、どのようなものがあり、どの程度問題か。実務上、どのような工夫が講じられており、それでもなお残る問題は何か。

【論点案④】M&A実施後の成長に向けた取組について

＜予見できなかったリスクへの対応＞

- 中小M&Aにおいて適切なDDや表明保証を進めるために、どのような取組が必要か。
 - 小規模M&AにおいてはそもそもDD等が行われていないケースも多いが、小規模M&AにおいてはどのようなDD等を行うべきか。そのようなDD等を進めるために必要な取組は何か。
 - 中規模M&AでDD等は適切に行われているのか。DD等によっても残るリスクにどう対応すべきか。
 - 経営資源引継ぎ補助金の制度内容・執行について、何らかの改善点はないか。

＜PMIの取組＞

- PMIを原因としてM&Aが失敗するケースはどの程度生じているのか。また、PMI支援はどの程度行われており、更にどのような取組が必要なのか。

＜新たな設備投資・販路開拓等の取組＞

- 事業承継補助金の制度内容・執行について、何らかの改善点はないか。特に感染症の影響を受けて、M&A実施後に必要となる設備投資等に変化はあるか。

【論点案⑤】再生・廃業・創業支援の取組との連携

＜事業再生支援との連携＞

- 中小企業再生支援協議会と事業引継ぎ支援センターとの連携に当たっての課題は何か。そもそもどのような業務で連携することが可能なのか。

＜廃業支援との連携＞

- 特に財務の毀損が大きくない案件について、廃業支援は足りているのか。感染症の影響が広がる中においては、廃業支援の重要性は高まっているのではないか。

＜創業支援との連携＞

- 後継者人材バンクの取組を含め、後継者不在の事業者と創業希望者をつなぐため、更にどのような取組を行うべきか。